

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00579

研究課題名（和文）「資本主義と民主主義の両立（不）可能性」の政治理論的研究

研究課題名（英文）Compatibility and Incompatibility of Capitalism and Democracy

研究代表者

田村 哲樹（Tamura, Tetsuki）

名古屋大学・法学研究科・教授

研究者番号：30313985

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、本来異なる資本主義と民主主義の両立が今後なおも可能なのかという問題に取り組むものであった。本研究を通じて、20世紀に福祉国家と選挙型代表制の組み合わせによって可能になった両者の両立は、現在では、それらの再考と共に検討されるべきことが明らかになった。例えば、熟議民主主義や抽選型民主主義などの新たな民主主義の構想が、資本主義との両立という観点から検討されるべきである。また、今日における両者の両立を考える際には、環境やケアなどの新たな課題をも考慮に入れるべきことも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、まず「資本主義と民主主義の両立可能性」という問題設定によって、「民主主義の危機」と呼ばれる問題を、民主主義を資本主義（経済）との関係によって考えるべきことの必要性を提起したことにある。また、本研究の意義は、政治理論分野と比較政治学分野との協働で取り組んだことにもある。このことによって、資本主義と民主主義のこれまでと現在の状況を把握しつつも、現在の形態を自明視することなく、より原理的かつ規範的なレベルでの考察を発展させることができた。また、この協働によって、政治理論と現実の関係についても議論を深めることができた。

研究成果の概要（英文）： This study addressed the question of whether the compatibility of the inherently different capitalism and democracy is still possible in the future. Through this research, it became clear that the compatibility, made possible in the 20th century by the combination of the welfare state and electoral representative system, should now be examined along with their reconsideration. For example, new conceptions such as deliberative democracy and sortition democracy should be examined in terms of their compatibility with capitalism. It also became clear that new issues such as the environment and care should also be taken into account when considering the compatibility of capitalism and democracy today.

研究分野：政治学・政治理論

キーワード：民主主義 資本主義 政治理論 民主主義理論 熟議民主主義

1. 研究開始当初の背景

かつて、資本主義と民主主義の両立可能性 / 不可能性という問題は、「資本主義か、社会主義か」という現実政治における対抗の根幹にあるとともに、学術的にも重要な課題であった。そもそも、経済原理としての資本主義と政治原理としての民主主義との両立は、必ずしも自明ではない。したがって、資本主義の下での政治原理として必然的に民主主義が要請されるとも言えないし、民主主義の下での経済システムが必然的に資本主義であるとも限らないのである。それにもかかわらず、1990年代以降は、東側の社会主義体制の根本的な転換と「自由民主主義の勝利」を受けて、政治理論における研究も含めて、資本主義と民主主義の両立を前提とした上で、その改革、類型化、因果関係の説明などに取り組む研究が主流となっていた。

しかし、近年になって、このような状況は変化しつつある。世界的な金融危機、緊縮財政への抗議運動、あるいは「ポピュリズム」と呼ばれる政治スタイルの台頭を背景として、2010年代には、民主主義あるいは資本主義の危機、さらにはその「終焉」をも視野に入れたタイトルを持つ著作が、相次いで刊行された。資本主義と民主主義の関係について、あらためて原的に考え直す時期が到来しているように思われた。

2. 研究の目的

本研究は、こうした背景の下で、次の課題に取り組もうとした。

(1) 第一に、資本主義と民主主義のこれまでの両立を自明の前提とせず、今後のあり得る両立可能性の複数のシナリオを、両立不可能性をも視野に入れつつ、理論的に探究することである。20世紀の民主主義と資本主義は、民主主義の自由主義化としての複数政党間の競争に基づく代表制と資本主義の民主化としての福祉国家との組み合わせによって、両立可能になったと考えられる。しかし、民主主義は自由民主主義に限られず、また、福祉国家は様々な批判にさらされている。したがって、今日では、この組み合わせ以外の資本主義と民主主義の両立(不)可能性を検討する必要がある。

(2) 第二に、そのことを通じて、政治学における政治理論という分野のあり方を再考し、「経験的事象に根ざした政治理論」を探究することである。経験的・実証的な政治研究との対比で言えば、経験的事象から距離を取っているところに、政治理論の存在意義があると言い得る。しかし、近年では、政治理論的な研究でも、経験的研究の成果を踏まえた研究が行われ始めている。そのような研究動向を意識しつつ、本研究は、経験的事象に根ざした政治理論のあり方を探究することも、本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、政治学の中の政治理論分野の研究者を中心としている。そのため、研究の主たる方法は、資本主義と民主主義に関する文献の読解であり、それを通じた、テキストの新たな解釈の提示、資本主義と民主主義の両立の(現在はまだ存在していないものも含む)新たなシナリオ・構想の提起、そして、資本主義と民主主義のあり得る両立不可能性の探索ということになる。政治理論的研究は、政治の規範的側面の研究であるため、その議論の範囲は、必ずしも既に存在しているものにとらわれない。本研究は、このような政治理論的研究の特性を踏まえて行われる。

(2) ただし、本研究は、「資本主義と民主主義の両立(不)可能性」というテーマを掲げる以上、そのような政治理論的な研究を、経験的な知見を踏まえつつ行うことを目指そうとした。そのため、比較政治学や経済学の研究者もメンバーに参加し、これらにおける知見を積極的に摂取する形で、研究を進めることとした。

4. 研究成果

(1) 第一に、「自由民主主義」の再検討に取り組んだ。そのために、2019年12月には、ヤン=ヴェルナー・ミュラー『試される民主主義』(岩波書店)の監訳者の一人である板橋拓己氏(成蹊大学(当時)、東京大学(現在))、および、ヨーロッパ政治史に即して「自由民主主義」の再検討を進めている網谷隆介氏(津田塾大学)を招いた研究会を開催した。

また、2019年1月には、自由民主主義を相対化した政治理論を構想する、松尾隆祐『ポスト政治の政治理論』(法政大学出版局)についての合評会形式の研究会を開催し、内田智氏(早稲田大学)と早川誠氏(立正大学)による報告をもとにした議論を行った。松尾氏の著作については、

2020年の社会思想史学会でも、本研究のメンバー3名が世話人となって、この本を検討するセッションを企画した。

加えて、2022年12月には、研究分担者の山崎望が編集した『民主主義に未来はあるのか?』（法政大学出版局）の合評会も、共催で開催した。

さらに、研究代表者は、日本政治学会の学会誌『年報政治学』2020-II号で、「自由民主主義の再検討」と題する特集の編集を担当し、これに研究分担者2名（加藤、吉田）も寄稿した。このことによって、「自由民主主義の再検討」が学界・学会における重要テーマの一つであることを示そうとした。

これらを通じて、自由民主主義が民主主義の唯一の形態ではないことをあらためて確認するとともに、自由民主主義的ではない民主主義のあり方について、経済民主主義・職場民主主義など、経済の民主化を目指す構想も含めて研究していくべきことが明らかになった。

(2) 第二に、資本主義の再検討を行った。これについては、2021年度にブランコ・ミラノヴィッチの著作、2022年度に柄谷行人の著作を、研究会において重点的に検討した。こうした検討を経て、あらためて資本主義と民主主義との結びつきが自明とは言えないことを理解した上で、本研究の射程を資本主義的ではない交換関係にまで拡張することができた。

また、福祉国家の再検討として、宮本太郎『貧困・介護・育児の政治』、および、西岡晋『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』の合評会を共催した。研究分担者には、福祉国家研究を専門とする者がおり、何度かの研究会での報告を通じて、福祉国家と資本主義の過去・現在・未来についての理解を深めることができた。

(3) 第三に、以上を踏まえた上で、本研究の最も中心となる研究は、「資本主義と民主主義」の関係をどのように考え直していくかということである。この点については、2022年8月に、研究分担者の千葉眞の著作『資本主義・民主主義・エコロジー』（筑摩書房）についての合評会を公開で企画し、研究メンバーから齋藤純一、杉田敦、田村哲樹が、またゲストとして山田祥子氏（東北大学）が、それぞれの立場から報告を行った。ここでは、「資本主義と民主主義」という問題を考える上での政治理論家シェルドン・ウォーリンの重要性やエコロジーという観点の不可欠性が確認された。

同じく2022年10月には、日本政治学会において「『資本主義と民主主義の両立可能性』の再検討」と題する分科会を企画・開催した。この分科会では、研究メンバーから加藤雅敏が「資本主義的民主主義の要諦としての『福祉国家』とその変容」、田村が「資本主義と抽選型民主主義の両立可能性」、そして森川輝一が「現代政治思想における資本主義批判の精神的な位置」と題して報告した。この分科会では、資本主義の民主主義的制御という課題における市民社会と有機的に結びついた立憲政体の重要性や、抽選型民主主義が資本主義を一定程度制御できるとすればどのようにしてかといった問題が議論された。

これらの議論を経て2023年度中に実施された、研究成果を取りまとめるための研究会では、「資本主義と民主主義」の外部の問題、「政治」と民主的社会主義の関係、「資本」の社会的な管理・運営の可能性、民主主義におけるポピュリスト政党の問題、ヨーロッパにおけるネオ・リベラリズムの政治的受容、資本主義社会における文化批判の問題、「ウォーク資本主義」と民主主義、ニュー・ユニシティパリズムの可能性、「資本主義と民主主義の両立可能性」から見た福祉国家の現在と将来、資本主義と熟議民主主義、などの報告が行われた。

以上の研究活動の中で、資本主義と民主主義の両立可能性あるいは不可能性の複数のシナリオが、より具体的なものとして浮かび上がってきたように思われる。

(4) 第四に、「経験的事象に根ざした政治理論」の探究については、2021年度中に、政治理論における政治的リアリズム論に関する最新の研究論文を研究会で検討して、政治理論としてのその方法的特質を学んだ。また、2022年7月には、気候変動問題を議論する気候市民会議の現実に詳しく、また、自らもその実践を行っている三上直之氏（北海道大学・当時、名古屋大学・現在）をゲストとして招聘して、三上氏の著作『気候民主主義』（岩波書店）について議論することを通じて、民主主義理論の現実への適用について理解を深めた。2024年3月には、政治理論・（熟議）民主主義理論研究者で、イギリスを中心に気候市民会議の経験的分析と実践に関わっているスティーブン・エルスタブ氏（ニューカッスル大学）を招いたワークショップを名古屋大学で共催し、政治理論と経験的研究との結びつきについて、更に具体的なイメージを得ることができた。さらに、2022年の秋には、政治理論研究のラッセ・トマセン氏（ロンドン大学クイーン・メアリー校）を招いた国際シンポジウム等を共催し、政治理論に関する知見の共有に努めた。

(5) 最後に、研究成果の具体的な公表について、本研究では、多くの学術書（編著や分担執筆を含む）や学術論文が公開され、また、日本学術会議（政治学委員会政治思想・政治史分科会）の公開分科会、日本政治学会、日本国際政治学会、日本比較政治学会、社会経済史学会、日本ミニ・パブリックス研究フォーラムなどの学会等で、研究メンバーが報告やコメントを行った。

加えて、国際的な研究発信でも、Routledge等の海外学術出版社からの単著や共編著刊行、Journal of Deliberative Democracyなどの海外学術誌への寄稿・掲載、（コロナ禍のため）オ

オンラインの場合も含めた海外学会等での報告などを通じて、一定の成果を挙げた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 山崎望	4. 巻 8
2. 論文標題 民主主義の危機と可能性 - 宇野重規への書評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 253-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田徹・村上裕一	4. 巻 16
2. 論文標題 「強い国家」ゆえの脆弱性? コロナ危機とフランス政治行政	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日仏政治研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 191巻6号
2. 論文標題 公的幸福 について アーレント『革命について』の解説、あるいは解体(一)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学論叢 (京都大学)	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉真	4. 巻 1179
2. 論文標題 チャールズ・テイラーの「宗教と世俗」論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 22-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田菜々子	4. 巻 2023年2月号
2. 論文標題 「人への投資」を問い直す	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田宏子	4. 巻 2022-1号
2. 論文標題 ジェンダーからパンデミック下の生政治・死政治を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 15-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村哲樹	4. 巻 第45巻第4号
2. 論文標題 熟議と抽選の関係を再考する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 計画行政	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14985/jappm.45.4_27	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otohe, Nobutaka	4. 巻 Online First
2. 論文標題 "The way to things": contentions over materiality and politics in the non-west between Kobayashi Hideo and Maruyama Masao	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1479591422000365	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura, Tetsuki	4. 巻 290
2. 論文標題 Varieties of the Post-Liberal Conception of Deliberative Democracy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法政論集（名古屋大学）	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/nujlp.290.1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 43
2. 論文標題 人民民主主義・民主主義・ポピュリズム チェコスロヴァキアの1940年代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 189巻6号
2. 論文標題 評議会の夢、自由民主主義の隘路 アーレントと現代政治思想（一）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学論叢（京都大学）	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 190巻1号
2. 論文標題 評議会の夢、自由民主主義の隘路 アーレントと現代政治思想（二）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学論叢（京都大学）	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Takeda	4. 巻 January Issue
2. 論文標題 In the Wasteland of Political Rhetoric: The Abe Government and the Tumbling of Political Discourse in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Public Jurist	6. 最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuki Tamura	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 Another Way for Deepening Democracy without Shortcut	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Deliberative Democracy	6. 最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16997/jdd.377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masato Shizume, Masatoshi Kato and Ryuzo Matsuda	4. 巻 14 (1)
2. 論文標題 A Corporate-centred Conservative Welfare Regime: Three-layered Protection in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Asian Public Policy	6. 最初と最後の頁 110-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17516234.2020.1829834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千葉真	4. 巻 第1160号
2. 論文標題 南原繁における「宗教と政治」 ナチズム批判と価値並行論を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤雅俊	4. 巻 2020-11
2. 論文標題 福祉国家論からみる自由民主主義体制の存立構造 政治システムのインプット、アウトプット、前提に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 15-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.71.2_15	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田徹	4. 巻 2020-11
2. 論文標題 極右に投票する労働者 歴史的ヘゲモニー・ブロックの崩壊?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.71.2_37	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 22
2. 論文標題 東中欧における「民主主義の後退」 「民主主義」と立憲主義の分断と接合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 89-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川輝一	4. 巻 Vol. 14
2. 論文標題 誕生と死、出生性と被投性 アーレントの「政治」とハイデガーの「倫理」をめぐる一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heidegger-Forum	6. 最初と最後の頁 32-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五野井郁夫	4. 巻 48 (13)
2. 論文標題 ハッシュタグと 現れ の政治 空間の秩序を変える直接民主主義について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤雅俊	4. 巻 第127号
2. 論文標題 福祉国家の持続可能性に関する一考察 持続可能な福祉国家に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 101-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乙部延剛	4. 巻 48 (17)
2. 論文標題 政治理論、政治哲学とマックス・ウェーバー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 101-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 13巻
2. 論文標題 EU・欧州評議会と東中欧の「統治するポピュリズム政党」の「民主主義」概念をめぐる対立	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラブ・ユーラシア研究報告集『転換期のポピュリズム?』	6. 最初と最後の頁 27-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎望	4. 巻 370号
2. 論文標題 BLM運動と右派運動に見る危機の時代の「民主的衝動」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村哲樹	4. 巻 2019-11
2. 論文標題 「自由民主主義を越えて」の多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 289-311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 第32号
2. 論文標題 「公共的な物」の劣化にどう対応するか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市とガバナンス	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎望	4. 巻 2019-11
2. 論文標題 「成熟社会論」から「ケアの倫理とラディカル・デモクラシーの節合」へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 15-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乙部延剛	4. 巻 2019-11
2. 論文標題 エートスの陶冶とは何か？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 36-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤雅俊 Masatoshi Kato	4. 巻 123号
2. 論文標題 On Theoretical Possibility of East Asia Welfare Regime: From the Point of Comparative Politics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 119-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00012975	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田菜々子 Nanako Fujita	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 Welfare Society and Welfare State in the Japanese-type. Discourse on Civil Society	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 503-521
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 自由民主主義対権威主義？ オルタナティブなき世界に抗して
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田徹
2. 発表標題 冷戦終結の「始末」 フランス・ミッテラン大統領による「欧州連邦構想」の出自と帰結
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshida, Toru
2. 発表標題 Du Populisme au Japon: Quoi de neuf?
3. 学会等名 Groupe d'Etude sur le Politique au Japon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森川輝一
2. 発表標題 現代政治思想における資本主義批判の精神史的位罫
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田村哲樹
2. 発表標題 抽選型民主主義と資本主義の両立可能性
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 ケインズとオリーの交流
3. 学会等名 ケインズ学会 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤雅俊
2. 発表標題 資本主義的民主主義の要諦としての「福祉国家」とその変容
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田宏子
2. 発表標題 「再生産」の危機と国家 現代日本から考える
3. 学会等名 日本比較政治学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeda, Hiroko
2. 発表標題 Authoritarian Populism in Everyday Life: The Discursive Politics of Demographic and Lifestyle Changes in Japan
3. 学会等名 Book Presentation: Crisis Narratives, Institutional Change, and the Transformation of the Japanese State edited by Sebastian Maslow and Christian Wirth, European University Institute (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 自由民主主義の危機とアナーキズムの潜勢力
3. 学会等名 日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤純一
2. 発表標題 「共通善」としての公衆衛生について
3. 学会等名 社会経済史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田徹（村上裕一と共同報告）
2. 発表標題 「強い国家」ゆえの脆弱性？ コロナ危機とフランス政治行政
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田徹
2. 発表標題 くじ引き民主主義の可能性を考える 選挙代表制との対比から
3. 学会等名 日本ミニ・パブリックス研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 ミラノヴィッチ『資本主義だけ残った』の諸論点とレギュレーション理論
3. 学会等名 進化経済学会（現代日本の経済制度部会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 五野井郁夫
2. 発表標題 ソーシャル・メディアとグローバルな民主主義
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Otohe, Nobutaka
2. 発表標題 Materialist Theory of Politics: Reexamination of Japanese Debates in the Mid-20th Century
3. 学会等名 Workshop on Materiality and Materialism（香港中文大学文化研究センター）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tetsuki Tamura
2. 発表標題 Varieties of the 'Illiberal' Conception of Deliberative Democracy
3. 学会等名 The ECPR (European Consortium for Political Research) 14th Conference (Virtual) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobutaka Otobe
2. 発表標題 Cliches as a Political Problem
3. 学会等名 The ECPR (European Consortium for Political Research)14th Conference (Virtual) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 東中欧諸国の法の支配をめぐる政治
3. 学会等名 日本政治学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masatoshi Kato
2. 発表標題 Theoretical Importance of Exceptional Cases: Japan and Australia in Comparative Welfare State Research
3. 学会等名 The 2020 RC19 Conference, Session:2A Asian-Pacific Welfare States in Perspective (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 「資本主義の終焉」論と北欧型資本主義の可能性
3. 学会等名 進化経済学会 現代日本の経済制度部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千葉真
2. 発表標題 アーレントとヴィラとの会話 ソクラテスのシティズンシップについて
3. 学会等名 日本アーレント研究会2020年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤純一
2. 発表標題 政治的リベラリズムにおける「保守」について
3. 学会等名 日本政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田瑞穂 (Mizuho Nakada-Amiya)
2. 発表標題 Clash over the nature of "Democracy": Governing Populist Party in East-Central Europe vs. the Council of Europe and the EU
3. 学会等名 the 26th International Conference of Europeanists (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田宏子
2. 発表標題 政党戦略とジェンダー 1990年代以降のイギリスにおける女性議員の増加
3. 学会等名 日本学術会議シンポジウム「男女がともにつくる民主政治を展望する 政治分野における男女共同参画推進法の意義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 グローバル化 / ポストグローバル化と民主主義の位相
3. 学会等名 日本政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤雅俊 (Masatoshi Kato)、徳久恭子 (Kyoko Tokuhisa)
2. 発表標題 The Political Effects of State Rescaling in Australia and Japan: A Comparative Analysis
3. 学会等名 The 2019 Canadian Political Science Association Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 レギュレーション・アプローチとスウェーデン経済学史研究
3. 学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度研究部会・制度と統治部会 (共同開催) (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計35件

1. 著者名 山崎 望 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 312
3. 書名 民主主義に未来はあるのか?	

1. 著者名 駒村圭吾編（吉田徹ほか著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 362
3. 書名 Liberty 2.0 自由論のバージョン・アップはありうるのか？（「デモクラシー『自由×民主主義』の融解？」を分担執筆）	

1. 著者名 吉田徹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 居場所なき革命	

1. 著者名 杉田敦・長谷部恭男・加藤陽子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 251
3. 書名 歴史の逆流 時代の分水嶺を読み解く	

1. 著者名 磯谷明德、植村博恭、山田鋭夫、池田 毅、西 洋、田原慎二、遠山弘徳、宋 磊、藤田菜々子、原田裕治、内橋賢悟、大熊一寛、横田宏樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 370
3. 書名 制度と進化の政治経済学（「資本主義の多様性とレジリエンス」を分担執筆）	

1. 著者名 藤田 菜々子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 438
3. 書名 社会をつくった経済学者たち スウェーデン・モデルの構想から展開へ	

1. 著者名 梅森直之編（齋藤純一ほか著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 452
3. 書名 アボリアとしての和解と正義 歴史・理論・構想（「動態のプロセスとしての和解 過去の不正への対応」を分担執筆）	

1. 著者名 齋藤純一・谷澤正嗣	4. 発行年 2023年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 公共哲学入門 自由と複数性のある社会のために	

1. 著者名 千葉真	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 350
3. 書名 資本主義・デモクラシー・エコロジー：危機の時代の「突破口」を求めて	

1. 著者名 吉田徹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 光文社	5. 総ページ数 213
3. 書名 くじ引き民主主義 政治にイノベーションを起こす	

1. 著者名 齋藤純一・田中将人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 246
3. 書名 ロールズ 社会正義の探求者	

1. 著者名 岩崎正洋編、吉田徹ほか著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 311
3. 書名 ポスト・グローバル化と国家の変容（「ポスト・グローバル時代のフランス いまだ『強い国家』なのか」を分担執筆）	

1. 著者名 野口雅弘・山本圭・高山裕二編（乙部延剛ほか著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる政治思想	

1. 著者名 井上義和・牧野智和編（田村哲樹ほか著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 215
3. 書名 ファシリテーションとは何か コミュニケーション幻想を超えて（「熟議民主主義におけるファシリテーション 熟議システム論の視座を踏まえて」を分担執筆）	

1. 著者名 二宮周平・風間孝編（田村哲樹ほか著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 366
3. 書名 家族の変容と法制度の再構築 ジェンダー／セクシュアリティ／子どもの視点から（「家族と民主主義」を分担執筆）	

1. 著者名 伊藤武・網谷龍介編（中田瑞穂ほか著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 276
3. 書名 ヨーロッパ・デモクラシーの論点（「ナショナリズムと地域主義・分離主義」を分担執筆）	

1. 著者名 田村哲樹（共編者）、齋藤純一（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 322
3. 書名 ハーバースを読む	

1. 著者名 田村哲樹 (那須耕介・橋本努編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ナッジ!? 自由でおせっかいなリベタリアン・パターナリズム	

1. 著者名 Hiroyuki Takeda (co-edited with Mark Williams)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 532
3. 書名 Routledge Handbook of Contemporary Japan	

1. 著者名 Nobutaka Otobe	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 208
3. 書名 Stupidity in Politics: Its Unavoidability and Potential	

1. 著者名 Toru Yoshida (edited by Cyril Benoit and Oliver Rozenberg)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 512
3. 書名 Handbook of Parliamentary Studies	

1. 著者名 高橋良輔、山崎望（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 時政学への挑戦 政治研究の時間論的転回	

1. 著者名 乙部延剛、森川輝一（日本アーレント協会編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 396
3. 書名 アーレント読本	

1. 著者名 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 403
3. 書名 政治学	

1. 著者名 千葉真（稲正樹・中村睦男・水島朝穂編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 353
3. 書名 平和憲法とともに 深瀬忠一の人と学問	

1. 著者名 中田瑞穂 (宮島喬・佐藤成基編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 包摂・共生の政治か、排除の政治か 移民、難民と向き合うヨーロッパ	

1. 著者名 吉田徹 (高橋直樹、松尾秀哉と共編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 250
3. 書名 現代政治のリーダーシップ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

なぜ概念とデータ収集の両方が大切なのか (The Loop: ECPR's Political Science Blog 記事) https://theloop.ecpr.eu/why-concept-and-data-collection-matter/?fbclid=IwAR0kWc6Ff3XwvQHghhcgqo0SszSwK_KDC_QIEs93utdI7KxWfrAqHc3tol4

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	千葉 眞 (Chiba Shin) (10171943)	国際基督教大学・教養学部・名誉教授 (32615)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 雅俊 (Kato Masatoshi) (10543514)	立命館大学・産業社会学部・准教授 (34315)	
研究分担者	藤田 菜々子 (Fujita Nanako) (20438196)	名古屋市立大学・大学院経済学研究科・教授 (23903)	
研究分担者	武田 宏子 (Takeda Hiroko) (20622814)	名古屋大学・法学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	杉田 敦 (Sugita Atsushi) (30154470)	法政大学・法学部・教授 (32675)	
研究分担者	森川 輝一 (Morikawa Terukazu) (40340286)	京都大学・法学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	五野井 郁夫 (Gonoi Ikuo) (50586310)	高千穂大学・経営学部・教授 (32637)	
研究分担者	乙部 延剛 (Otobe Nobutaka) (50713476)	大阪大学・大学院法学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	齋藤 純一 (Saito Junichi) (60205648)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 徹 (Yoshida Toru) (60431300)	同志社大学・政策学部・教授 (34310)	
研究分担者	中田 瑞穂 (Nakada Mizuho) (70386506)	明治学院大学・国際学部・教授 (32683)	
研究分担者	山崎 望 (Yamazaki Nozomu) (90459016)	中央大学・法学部・教授 (32617)	
研究分担者	高橋 良輔 (Takahashi Ryosuke) (70457456)	青山学院大学・地球社会共生学部・教授 (32601)	逝去（2021年3月）

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関